

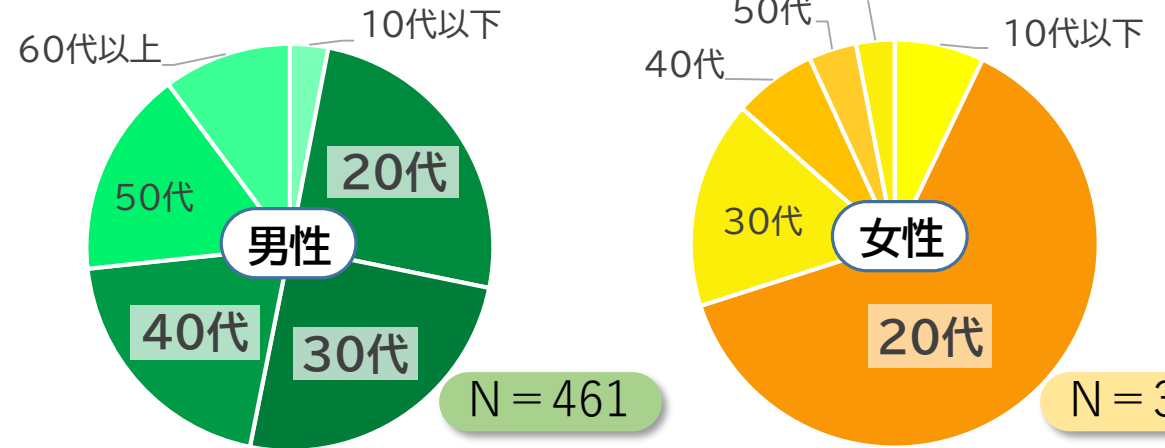
梅毒の感染状況と早期発見について

- ◆ 梅毒報告数が今年は**過去最悪ペース**で推移しており、特に**女性の10代後半から20代前半**の増加が顕著です。
- ◆ 保健所等で、HIV検査と同時に**無料・匿名**で梅毒の検査を受けられます。
- ◆ 感染疑いのある方と予防策なしに性的接触したなどで、不安がある場合は、早期に検査を受けましょう。

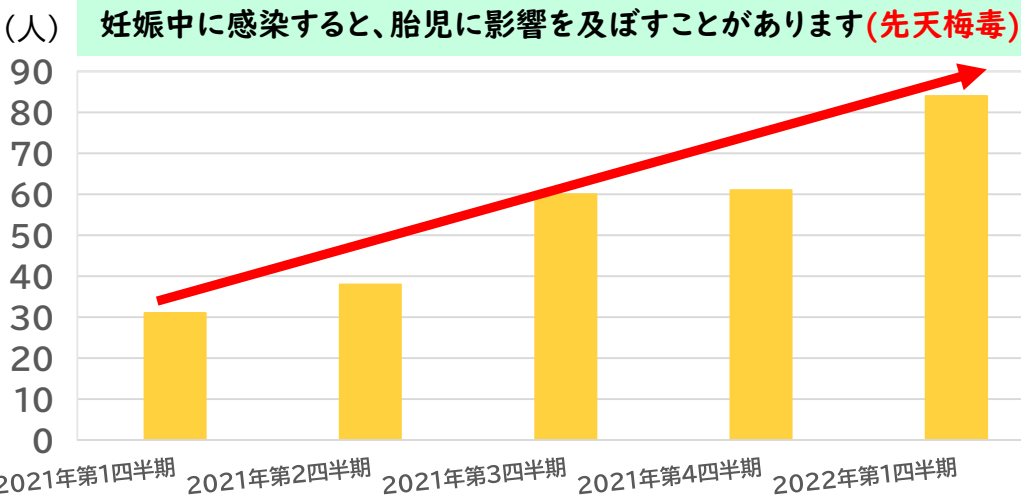
年別の報告数推計

6月第2週時点で去年の約**2倍**
過去最悪のペース

年齢別の報告数割合 (2021年)



女性 (10代後半から20代前半) の報告数推移



異性間の性的接触 (感染部位と粘膜・皮膚の接触) による感染が約**7割**

感染経路は

○ 主に性的接触ですが、口周辺に皮膚症状があるとキスで感染することもあります。

予防するには

○ **コンドームで一定の予防効果**はあります。ただし、HIVと比べて感染力が強いといわれています。

検査を受けるには

○ 血液検査 (抗体検査) で感染の有無がわかります。

保健所や「**chot CAST (※)**」等で**無料・匿名**で受けることができます。

(※) 東心斎橋にある平日夜間・土日昼間に無料で検査等を実施する施設

- ◆ 症状が出たら、すぐに医療機関（皮膚科・泌尿器科・産婦人科等）を受診しましょう。
- ◆ 症状が軽快することがあるため、治ったことを確認しないまま途中で治療をやめないことが大切です。
- ◆ 梅毒は完治しても**繰り返し感染する**ことがあるため、再感染の予防が重要です。

症 状

○感染後の経過期間によって症状が異なります。

- 初 期：感染部位（陰部、口の中など）のしこりや潰瘍、股の付け根のリンパ節の腫れ
3ヵ月以上経過：手のひら、足の裏、体全体に赤い発疹（バラ疹）
数 年 経 過：皮膚、筋肉、骨などにゴムのような腫瘍の他、脳神経や臓器などに重大な障がい

○これらの症状は、痛みやかゆみがなく、一定期間で消失したり、無症状のまま進行することがあるため、長年にわたり感染に気づかないことがあります。

感染がわかったら

- 気づかないうちにパートナーにうつしている可能性があります。
- パートナーにも検査を勧め、必要に応じて一緒に治療を行うことが重要です。

治 療

○抗生物質が有効で、**早期・継続治療により完治**します。



(バラ疹) 出典：大阪感染症情報センター



梅毒検査は府内の保健所等で！

▶ 府ホームページ

検索 大阪府 梅毒



▶ おおさかエイズ情報NOW
(検査場検索サイト)

